

“ちいさな企業” 成長本部（鳥取県鳥取市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成25年10月18日（金） 14：00～16：00
- ・ 場所：鳥取県鳥取市（とりぎん文化会館）
- ・ 「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主なご意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- ハローワークや人脈を使って採用しようとしているが、良い人に巡り会えない。マッチング支援があれば嬉しい。
- 高速道路が開通したことへの危機感を地域の共通認識とし、一枚岩となって魅力ある街作りに取り組んでいる。皆で一緒に頑張るという雰囲気作りが大事。
- 旅館業は零細企業ばかり。一社ではできることに限界があるため、地域全体で観光振興に取り組んでいきたい。
- 家内工業の良さを残しながらも、新しい労働形態や産業に転換していきたい。特に、オリンピックの開催に向けて、外国人の集客や受入体制作りが必要であり、行政の役割は重要。
- 産学官連携のスキーム作りや、地域のビジネスリーダーになるような機関が必要。
- 資金繰りの相談や、経営改善計画の策定など、商工会には大変支援していただき、身内にも支援してもらった。そのおかげで厳しい時期を乗り越えた。
- 伝統産業を引き継いでくれる若者の育成が厳しい。1～2年では、即戦力は育たないし、長期で頑張ることができる若者も少ない。
- 商店街は、イベントを開催すれば一時的に人が集まるが、日常的に集めるの

は難しい。商店街全体よりも、個店を中心に変わることができるよう取り組んでいる。

- 中央会の支援のおかげで、創業は意外とすんなりできたが、その後の継続や発展が大変難しく感じている。特に地方では、どうしてもパイの奪い合いになってしまい、利益継承が難しい。
- 「価格競争から価値競争へ」、この土俵を中小企業で作っていきたい。

<支援機関等>

- 顧客であるLEDの製造会社が、自社のLEDを使い商店街の空きスペースに野菜工場を設置し、そこに人を雇った。鳥取大学発ベンチャーが開発した培養液をマッチングさせ、生産した野菜は県内外へ出荷している。地域循環のビジネスモデルの確立といえると思う。
- 正しい会計知識が中小企業の武器になるよう、中小会計要領の啓蒙や、情報提供等を進めている。
- ものづくり補助金は、中堅企業に多く活用され、あっという間に予算がなくなってしまったように感じる。今後は、小規模事業者に限定するような支援を検討してほしい。また、商業・サービス業にも設備投資に対する支援をしてほしい。
- 企業誘致に積極的に取り組み、工業団地の設置にも力を入れていきたい。今後は、成長分野への参入も支援していきたい。



以上